

(本社大阪市)の八戸店(九十二室)が中心街の長横町にオープンした。八戸駅前の一番町二丁目では、「東横イン」(本社東京)の八戸駅前一号店(百九十室)が○五年六月中旬のオープンを目指して建設中だ。

中央資本の相次ぐ参入に、既存のホテル関係者は「少ないパイの奪い合いになる」と、予想される顧客の争奪戦に気を引き締めている。

「ンが社内にない」との答えが約21%、「ガイドラインはあるが許可不要」との答えも約24%あ

た。逆に「ガイドラインがあり許可が必要」は約45%、「持ち出しは全面禁止」は約4%あった。「規定があるかどうか不明」も約6%だった。ガートナー社は「パソ

コン携帯のスタイルは、今やビジネスに不可欠。企業は持ち出しをただ禁止するだけでなく、情報漏れを防止できる技術的な仕組みをつくる必要がある」と指摘している。

の原子力事情を紹介し、「原子力はクリーンなエネルギーで人類の将来に不可欠。丹念な設計と建設、入念な運転に心掛けるべきだ」と原子力推進を主張した。

原子力はクリーン

将来不可欠と強調

仏のブルーノ氏

青森で講演会

日本原子力文化振興財団(秋元勇巳理事長)は三十日、青森市のアラスカ会館で第四十一回「原子力の日」記念講演会を開き、フランスのエコロジスト(環境主義者)、

ブルーノ・コンビ氏が「エコロジと原子力」をテーマに講演した。ブルーノ氏は、フランスでエネルギー、環境関連の研究所長を務め、講演やテレビ出演など幅広い分野で活躍している。

使用済み核燃料の再処理に関しては「ウラン資源の有効活用になる」と強調。フランスのラ・アーグ再処理工場周辺で白血病が集団発生したとの論文発表に対しては「政府の調査で根拠がないことが確認された。全くのデマだった」と述べた。

講演でブルーノ氏は、世界のエネルギーをめぐる情勢やヨーロッパ諸国

の原子力事情を紹介し、

「原子力はクリーンなエ



講演会で原子力推進を主張するブルーノ・コンビ氏

9月の住宅着工 10・1%増加

国土交通省

国土交通省が発表した九月の新設住宅着工戸数は、前年同月比10・1%増の十万八千二百八十一戸と三カ月連続で増加した。持ち家が三カ月ぶりに減ったが、貸家、分譲住宅が増え、全体で増加した。

地域別では首都圏が前年同月比16・1%増、中部圏8・6%増、近畿圏